

Topics

～一般公共インフラ分野で日本初～

ISO 55001 の認証を取得



登録証を手にする日本環境認証機構の立上社長（左）と甲村水資源機構理事長

「アセットマネジメントシステム」とは

皆さんは「アセットマネジメントシステム」という言葉をご存じでしょうか。

アセットマネジメントシステム（AMS）とは、組織に価値のあるアセット（資産）を期待どおりにその価値を発揮させるためのシステムを構築して運用することをいいます。社会インフラを資産とすれば、社会インフラのライフサイクル全体にわたって効率的かつ効果的に、建設・維持管理・運営する仕組みを意味します。水資源機構に即して言えば、「ダム、水路等のインフラを、適切に建設・維持管理することにより、安定的かつ良質な用水の供給、洪水被害の防止・軽減を図るために実施している業務の仕組み」と捉えることができます。

この度、水資源機構は、自らが所有するダム、水路等の施設を対象として構築したAMSに関し、

国際規格であるISO 55001の認証を取得しました。

ISO 55001は、ISO（国際標準化機構）が定めるAMSの国際規格であり、2014年1月に発行されました。ISO 55001の日本国内における10の認定分野*のうち、「一般公共インフラ」分野では、

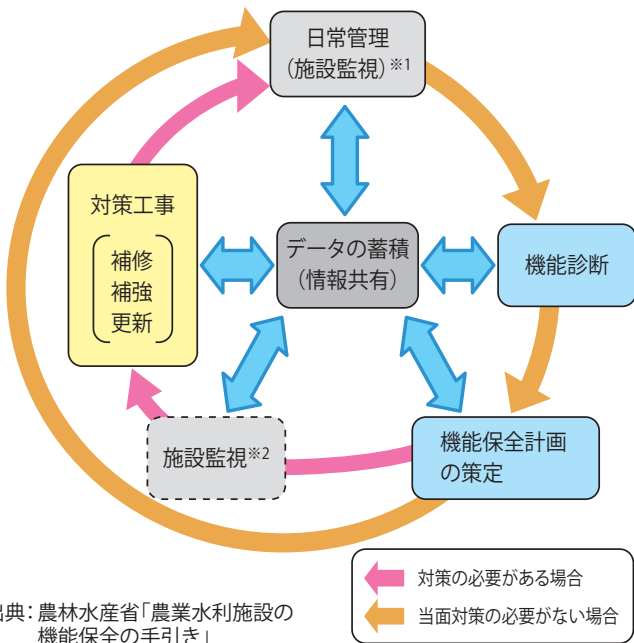


ISO 55001登録証

水資源機構が日本で初めてとなる認証を取得しました。

PDCAサイクルによる業務運営

水資源機構では、これまでも、ダム事業部門、水路事業部門等の各部門において、いわゆるPDCAサイクル（「Plan計画」→「Do実行」→「Check検証」→「Act改善」を循環して行うこと。）により業務を実施してきました。具体的には、ダム・水路等を計画的に建設し、施設の完成後は、日常点検、定期的な機能診断調査等を行い、施設の状態を確実に把握し、施設が有するリスクと利水者に与える影響などの情報を利水者等と共有します。こうして適時・的確に対策を講じることにより、施設の長寿命化・ライフサイクルコストの縮減を図っています。



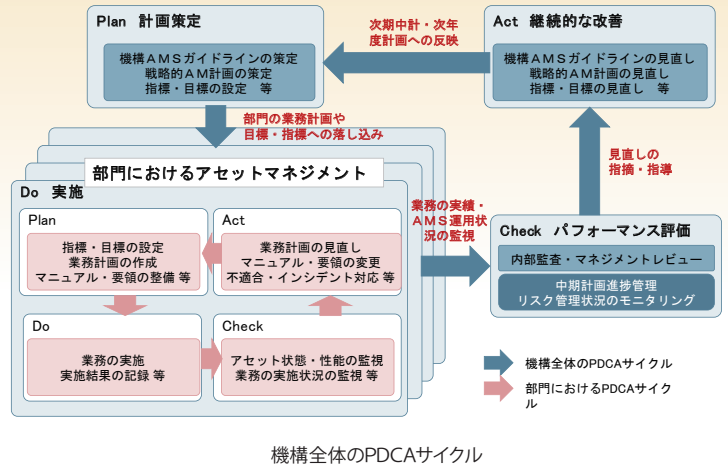
出典：農林水産省「農業水利施設の機能保全の手引き」

※1 日常管理の一環として継続的に行う施設監視（結果は機能診断・機能保全計画策定等に活用）
 ※2 機能保全計画の精度を高め、適期に対策工事を実施するために継続的に行う施設監視

各部門におけるPDCAサイクル（水路事業部門における例）

また、水資源機構は、独立行政法人として、主務大臣から指示された5年間の事業運営に関する目標である中期目標に基づき、中期計画及び年度計画を作成し（P）、計画に基づいて業務を行い（D）、業務運営の状況について機構内で業務運営の進捗状況や自己評価を行うとともに、毎年主務大臣の評価を受け（C）、この評価を踏まえて次年度の年度計画等について改善（A）を図っています。

このような各部門における業務運営に加えて、水資源機構全体の業務運営においても、PDCAサイクルに基づく体制を整えてきました。さらに、本年4月から、新たにAMS内部監査やマネジメントレビューを行うことにより内部統制の体制を強化しました。このような実績が認められ、ISO 55001の認証を取得することができました。これは、水資源機構の施設の建設・維持管理に関する業務能力が、国際標準に照らして十分なレベルであると第三者認証機関から認証されたものです。



水資源機構では、今回のISO 55001の認証取得を励みに、今後ともAMSに沿って、ダム、水路等のインフラを適切に建設・維持管理するとともに、業務の継続的な改善を図ることによりサービス向上を目指していきます。また、これを機に、一層の業務の効率化、適切な内部統制を実施して、「安全で良質な水を安定して安くお届けする」という経営理念の実現に努めてまいります。

ISO 55001の認証を取得した範囲

(1) 組織名称

独立行政法人水資源機構
 本社及び総合技術センターの関係部署並びに沼田総合管理所及び利根導水総合事業所

(2) 登録範囲

水資源の開発又は利用のための施設の建設及び管理

(3) 登録日

平成28年8月19日

* ISO 55001の日本国内における認定分野は、公益財団法人日本適合性認定協会が定めており、関連する活動等により「一次産業」、「製造業」、「鉱業、採石業」、「原子力産業」、「運輸」、「一般公共インフラ」、「ユーティリティ」、「施設」、「情報技術、金融、電気通信」、「防衛」の10分野に区分されています。